

## 企画セッション

### ◆ 日本における技術移転の実態と課題: 対象特許の価値評価の視点から ◆

<日時> 令和3年 11月28日(日) 14:30~16:00

#### 【パネリスト】 (敬称略、五十音順)

袁 媛 (東洋英和女学院大学 准教授)  
川名 弘志 (KDDI 株式会社 知的財産室長)  
竹中 俊子 (ワシントン大学 教授)  
米山 茂美 (学習院大学 教授)

#### 【モデレータ】

山内 勇 (明治大学 准教授)

#### 【概要】

優れた技術や知識があってもそれらが活用されなければ社会的な価値は生まれない。イノベーションによる社会的な価値の創出には、多様な知識を結合し新たな知識を生み出すという営みだけでなく、より高い価値を生み出し得る主体に技術や知識を移転させる基盤を整えることが重要である。オープンイノベーションの文脈において、知的財産権の活用が提唱されているのにも、こうした考え方が根底にあるだろう。他方で近年では、AI や IoT に代表される汎用性の高い技術の発展や様々な分野における技術の深化に伴い、排他性を軸とした知的財産創出のインセンティブと、技術や知識の広範な活用との間のバランスが難しくなっている面もある。

こうした中、我が国では特許出願件数が減少傾向にあるばかりか、知的財産権の移転も決して活発とは言えない状況である。例えば、『特許行政年次報告書』によれば、企業が保有する特許の約半数は実施されておらず、未利用特許のうち防衛的な用途にも利用されていない特許は約2割に及ぶ。

移転すべき特許の選択や移転先の探索、それらに付随する価値評価、ノウハウの移転など、技術移転の各段階で企業は様々な困難に直面していると考えられる。それらのうち、日本において特許の移転が低調である主たる原因は何だろうか。また、他国との比較において、こうしたミクロの要因だけでなく、産業や一国全体でのイノベーションのエコシステムというマクロの違いも無視できない。特に金融市場における知的財産権の評価は、技術の創出・移転のインセンティブに大きな影響を及ぼすと考えられる。

そこで、このセッションでは、まず、国際比較の観点も含めて、日本における技術移転の特徴や対象特許の評価に関する実態を把握しその課題を浮き彫りにする。そのうえで、今後我が国で技術や知識の流動性を高めていくための方策について議論していく。

## 企画セッション

### ◆ 日本における技術移転の実態と課題: 対象特許の価値評価の視点から ◆

【講演者略歴】 (敬称略、五十音順)

#### 袁 媛 (えん・えん; Yuan Yuan)

法政大学大学院博士課程修了。東京大学工学系研究科(特任准教授)、早稲田大学高等研究所(准教授)、華東師範大学経営管理学部(准教授)、知的財産研究所(特別研究員)、国立情報学研究所(特任准教授)の勤務を経て、2020年より東洋英和女学院大学国際社会学部准教授。専門分野はコーポレートファイナンス、コーポレートガバナンス、銀行業の産業組織、経済政策、中国経済。

#### 川名 弘志

KDDI 株式会社 知的財産室長 弁理士

1993年 第二電電(現、KDDI)入社、2000年 知的財産室、2006年 弁理士登録、2015年4月より知的財産室長。2021年6月より株式会社ソラコム社外取締役。令和元年度 特許庁産業財産権制度問題調査研究(経営に資する知財マネジメントの実態に関する調査研究)委員、令和3年度特許庁産業財産権制度問題調査研究(大企業等によるオープンイノベーションを促進する知財戦略に関する調査研究)委員ほか。

#### 竹中 俊子

ワシントン大学ロースクールの W. ハンターシンプソン/ワシントンリサーチフロンティア技術法教授の称号を持つテニユア正教授。2016年からジョイントアポイントメントにより慶應義塾大学大学院法務研究科の専任教授として知的財産権科目を担当。ストラスブール、リヨン、ドレスデンの大学で比較知財法の講義を毎年担当。知財管理の講座を担当した貢献から2018年にミュンヘン工科大学から TUM アンバサダーの称号を授与される。

#### 米山 茂美

一橋大学大学院商学研究科博士課程修了後、西南学院大学商学部講師・助教授、武蔵大学経済学部助教授・教授を経て、2013年より現職。その間、米国 University of California at Berkeley, Haas School of Business フルブライト客員研究員、仏国 INSEAD (l'Institut Européen d'Administration des Affaires) 客員研究員、文部科学省科学技術・学術政策研究所総括主任研究官、政策研究大学院大学連携教授を歴任。2020年、フィンランド LUT 大学客員教授。

以上